



# 平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月31日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 グローバル総務・経理・人事本部長 (氏名) 勝木 知文

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	27,663	6.4	2,614	0.4	2,820	13.7	2,044	23.0
29年3月期第1四半期	25,999	2.2	2,603	32.8	2,481	14.8	1,661	2.7

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 1,523百万円 ( %) 29年3月期第1四半期 817百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	34.20	34.01
29年3月期第1四半期	27.80	27.69

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	112,214	71,831	63.4	1,190.14
29年3月期	112,588	71,375	62.8	1,182.80

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 71,128百万円 29年3月期 70,690百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		12.00		18.00	30.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		15.00		15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	55,000	5.7	4,600	2.0	4,800	0.3	3,300	2.2	55.22
通期	112,000	3.6	9,700	0.5	10,000	2.7	7,000	0.4	117.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期1Q	64,633,646 株	29年3月期	64,633,646 株
30年3月期1Q	4,868,653 株	29年3月期	4,868,604 株
30年3月期1Q	59,765,008 株	29年3月期1Q	59,754,499 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(セグメント情報等) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、企業収益や雇用環境の改善が見られるものの、景気回復については実感性に乏しく、景気を支えるべき個人消費には、未だ回復の兆しが見られない状況が続いております。世界経済は、中国や新興国経済の成長鈍化、先進諸国の政策動向、テロなどが及ぼす影響も不透明であり、今後の方向性を注視していかなければならない状況にあります。

そのような環境の中、当社グループでは、「21世紀型企業への変革！」を中期方針に掲げ、変化し続ける経営環境においても、常にお客様のニーズに応え、かつ安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、“新規事業の創出”と“グローバル事業の拡大”を柱とした中期事業戦略を推進しております。併せて、戦略遂行に必要な人材育成や組織機能の拡充、さらには生産性向上・業務の効率化改善、徹底した経費削減などによる収益力強化を図り、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第1四半期の連結業績は、売上高 276 億 63 百万円（前年同期比 6.4%増）、営業利益 26 億 14 百万円（同 0.4%増）、経常利益 28 億 20 百万円（同 13.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益 20 億 44 百万円（同 23.0%増）となり、第1四半期累計期間における営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高益となりました。

## 〔セグメント別の業績概況〕

## (車輛資材事業)

国内事業では、新車販売が低迷する中、“革を超える新素材”「クオーレ®」や瞬間消臭機能の「イノドール®」、防汚機能の「エラッセ®」、ステアリング用の夏冬快適素材「クオーレモジュール®S」など、車輛の室内空間を快適にする高付加価値商品群が堅調に推移し、ビスコテックス加飾パネルについても、順調に推移しました。しかしながら、一方で一時的なエアバッグの受注減などの影響を受け、国内事業は前年同期比で若干の減益となりました。

海外事業においては、タイでは自動車販売台数が落ち込み苦戦しましたが、米国と中国で自動車販売台数が順調に推移したことや、「クオーレ®」をはじめとする差別化商品が大きく売上を伸ばしたことが寄与し、海外事業全体では増収・増益を達成することができました。

また、海外新拠点として、2013 年末にインド、インドネシア、2015 年に河北（中国）、そして 2016 年にメキシコと順次立ち上げてきましたが、すべて当初計画以上で進捗しております。特に今後の増産対応に向け、蘇州とメキシコにおいて“革を超える新素材”「クオーレ®」の生産ラインを増設、並びに河北においてエアバッグ工場の建設を、前倒しで着手しております。

当事業の売上高は 158 億 18 百万円（前年同期比 8.0%増）、営業利益 16 億 2 百万円（同 5.2%増）となりました。

## (ハイファッション事業)

国内では、消費者の節約志向は依然強く、当社グループの主要顧客である国内アパレルブランドを取り巻く環境は厳しい状況が続いております。

当社グループのファッション衣料向けテキスタイルおよび製品販売事業においては、「VISCOTECS®」等身大CAD上で具体的な製品イメージを描きながら企画した差別化デザインを、糸から縫製までのグループ一貫機能と結び付けて小ロット・短納期・在庫レスで最適生産を行うなど、お客様のニーズに対応し健闘してきました。また、当社グループのニット技術と加工技術を駆使したインナー衣料向け差別化素材の製造・販売も堅調に推移しており、今後更に拡大する市場ニーズに対応すべく、目下、国内工場および海外子会社のSaha Seiren Co., Ltd.（タイ）において独自編機の増設を進め、生産能力の増強に着手しております。しかしながら、セグメント全体においては、国内市場の消費マインド低迷の影響を受け、数量ダウンをカバーするにまで至らず、前年同期比で増収・減益となりました。

当事業の売上高は63億19百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益は91百万円（同59.8%減）となりました。

## (エレクトロニクス事業)

繊維と金属の複合化技術により差別化を高めた電磁波シールド材「プラット®」は、より付加価値を高めるべく部品化・製品化を進め、販売を拡大しました。また、新規受注として通信機器向けの薄型電極材が売上高を伸ばしました。KBセーレン(株)では、高性能ワイピングクロス「ザヴィーナ®」が堅調に推移し、スーパー繊維の「ゼクシオン®」および「グラディオ®」についても、用途開発の進捗とともに採用件数が増えています。

海外では、繊維機械の製造販売事業を展開する世聯電子(蘇州)有限公司(中国)において、高性能差別化機種の販売拡大が進み、増益となりました。

当事業の売上高は20億97百万円(前年同期比34.8%増)、営業利益は4億92百万円(同96.4%増)となりました。

## (環境・生活資材事業)

新設住宅着工戸数に緩やかな回復の動きが見られる中、当セグメント主力のハウジング資材事業では、優れた省エネ性能をもつ遮熱型ハウスラップ材「プレミアムサーモ®」や遮熱型ルーフィング材「ルーフラミテクト®RX」をはじめ、当社グループ独自の差別化商品群が売上高を伸ばしました。

また、新たな事業領域である環境・土木分野においては、独自の繊維技術により商品化した防草シート「グラスガード®」の業界認知度を増し、さらなる販売拡大を進めています。

健康・介護事業では、昨年来続いておりました診療報酬の改定に伴う施設等での商品買い控えの動きも弱まり、新規案件獲得に向けた販促に注力しております。

当事業の売上高は16億64百万円(前年同期比2.2%減)、営業利益は2億25百万円(同20.7%増)となりました。

## (メディカル事業)

当社の独自技術で商品化した、繭から生まれた天然成分「ピュアセリシン™」配合のコモエース化粧品は、自社サイトや百貨店常設店舗における販売強化に加え、プレミアム商品などの販売が好調に推移し、売上高を伸ばしました。

卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「デオエスト®」は、さらなる売上高拡大を図るため、顧客ニーズにマッチした新商品投入を継続しつつ、メディア展開を始めとするプロモーションに注力し販売拡大を進めています。

また資材分野では、KBセーレン(株)の差別化原糸をはじめとするグループ一貫機能を活かした差別化商品が売上高を伸ばしましたが、薬価改定の影響により、一部の医療用製品において既存品の受注減少がありました。

当事業の売上高は15億28百万円(前年同期比5.5%減)、営業利益は4億47百万円(同2.3%減)となりました。

## (その他の事業)

(株)ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業やセーレンコスモ(株)の人材派遣事業が堅調に推移しました。

当事業の売上高は2億35百万円(前年同期比7.0%減)、営業利益は1億52百万円(同3.3%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、受取手形及び売掛金などの流動資産の減少や、建物及び構築物などの有形固定資産の減少により、全体で前連結会計年度末と比較して3億74百万円減少の1,122億14百万円となりました。負債の部は、支払手形及び買掛金などの流動負債の減少により、8億30百万円減少し、403億82百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加などにより4億56百万円増加し、718億31百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は126億37百万円となり、前連結会計年度末より4億34百万円増加しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、19 億 98 百万円の収入（前年第 1 四半期連結累計期間は 19 億 68 百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 28 億 19 百万円、減価償却費 11 億 36 百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、14 億 17 百万円の支出（前年第 1 四半期連結累計期間は 3 億 43 百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 10 億 15 百万円などによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、57 百万円の収入（前年第 1 四半期連結累計期間は 13 億 74 百万円の支出）となりました。これは主に、配当金の支払 10 億 88 百万円や借入金の純増 11 億 45 百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第 2 四半期連結累計期間および通期の業績予想につきまして、当第 1 四半期の業績が想定よりも好調に推移したことに伴い、平成 29 年 4 月 28 日に発表した業績予想を修正しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,838	14,460
受取手形及び売掛金	25,322	24,130
有価証券	—	99
商品及び製品	9,388	9,673
仕掛品	2,732	2,927
原材料及び貯蔵品	4,114	3,937
その他	2,812	2,909
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	58,197	58,126
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,246	21,899
機械装置及び運搬具(純額)	9,824	9,730
工具、器具及び備品(純額)	469	507
土地	10,175	10,205
建設仮勘定	1,517	1,496
有形固定資産合計	44,233	43,839
無形固定資産	2,600	2,667
投資その他の資産		
その他	7,580	7,604
貸倒引当金	△22	△23
投資その他の資産合計	7,557	7,581
固定資産合計	54,391	54,087
資産合計	112,588	112,214
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,572	14,769
短期借入金	2,918	4,513
未払法人税等	1,022	518
役員賞与引当金	120	—
賞与引当金	1,233	512
その他	4,590	4,715
流動負債合計	25,456	25,029
固定負債		
長期借入金	8,195	7,745
役員退職慰労引当金	161	161
退職給付に係る負債	5,655	5,650
その他	1,744	1,795
固定負債合計	15,755	15,353
負債合計	41,212	40,382

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,801	16,801
利益剰余金	38,218	39,186
自己株式	△3,904	△3,904
株主資本合計	68,634	69,602
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,512	1,524
為替換算調整勘定	314	△216
退職給付に係る調整累計額	228	217
その他の包括利益累計額合計	2,055	1,526
新株予約権	273	293
非支配株主持分	412	409
純資産合計	71,375	71,831
負債純資産合計	112,588	112,214



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	25,999	27,663
売上原価	18,602	20,204
売上総利益	7,397	7,458
販売費及び一般管理費	4,793	4,843
営業利益	2,603	2,614
営業外収益		
受取利息	59	58
受取配当金	49	54
為替差益	—	46
その他	43	68
営業外収益合計	152	227
営業外費用		
支払利息	16	13
為替差損	237	—
その他	21	8
営業外費用合計	275	22
経常利益	2,481	2,820
特別利益		
固定資産売却益	3	0
特別利益合計	3	0
特別損失		
固定資産処分損	1	1
その他	0	—
特別損失合計	1	1
税金等調整前四半期純利益	2,482	2,819
法人税等	812	767
四半期純利益	1,670	2,051
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,661	2,044

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	1,670	2,051
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△143	12
為替換算調整勘定	△2,328	△529
退職給付に係る調整額	△15	△11
その他の包括利益合計	△2,487	△528
四半期包括利益	△817	1,523
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△803	1,514
非支配株主に係る四半期包括利益	△13	8

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,482	2,819
減価償却費	1,111	1,136
固定資産処分損益(△は益)	△1	0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△783	△721
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△11	△16
受取利息及び受取配当金	△109	△112
支払利息	16	13
為替差損益(△は益)	33	△53
売上債権の増減額(△は増加)	1,076	981
たな卸資産の増減額(△は増加)	△695	△432
仕入債務の増減額(△は減少)	△313	△666
未払消費税等の増減額(△は減少)	△19	△34
その他	330	16
小計	3,116	2,931
利息及び配当金の受取額	115	112
利息の支払額	△18	△14
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,244	△1,031
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,968	1,998
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,221	△1,015
有形固定資産の売却による収入	3	1
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△7	△108
定期預金の純増減額(△は増加)	999	△187
その他	△117	△107
投資活動によるキャッシュ・フロー	△343	△1,417
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100	1,650
長期借入金の返済による支出	△620	△504
配当金の支払額	△776	△1,075
非支配株主への配当金の支払額	△76	△12
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,374	57
現金及び現金同等物に係る換算差額	△832	△203
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△582	434
現金及び現金同等物の期首残高	9,476	12,203
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,893	12,637

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	14,651	6,220	1,555	1,702	1,616	25,745	253	25,999	—	25,999
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	1	76	—	—	77	151	229	△229	—
計	14,651	6,221	1,631	1,702	1,616	25,823	405	26,228	△229	25,999
セグメント利益	1,523	227	250	187	457	2,646	147	2,794	△190	2,603

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	15,818	6,319	2,097	1,664	1,528	27,427	235	27,663	—	27,663
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	1	36	—	—	38	168	207	△207	—
計	15,818	6,321	2,134	1,664	1,528	27,466	404	27,870	△207	27,663
セグメント利益	1,602	91	492	225	447	2,860	152	3,013	△398	2,614

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) 車両資材……………自動車・鉄道車輛等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………ビスコテックス・システム及びサプライ、工業用ワイピングクロス、電子機器
- (4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、エコ関連資材
- (5) メディカル……………化粧品、浄水器及びフィルター、医療用製品

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第1四半期連結累計期間203百万円、当第1四半期連結累計期間416百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。